

## ■第5回武蔵野市緑の基本計画検討委員会 議事要旨

●日時：平成30年8月20日(月) 19:00～21:00

●場所：武蔵野市役所 802会議室

●武蔵野市緑の基本計画検討委員会 出席者8名、欠席者2名

阿部委員長、池田委員、小田委員、小松委員、鈴木委員、曾田委員、田中委員、平田委員

●事務局

- ・環境部 緑のまち推進課 関口課長ほか8名
- ・株式会社総合設計研究所：3名

●次第と主な議論内容

### 1 報告事項

(1) 第4回検討委員会・第3回庁内委員会の報告

- ・平成30年5月の検討委員会および6月の庁内検討委員会の主な意見について確認し、これまでの委員会での検討経緯を共有した。

(2) 計画の基本的な考え方について

- ・緑の基本計画の基本理念・あるべき姿・計画のテーマ・目標・緑の方針について、前回の検討委員会および庁内委員会の意見を踏まえ取りまとめた内容の確認と、気になる点や抜けている視点について再確認を行った。

### 2 議事

(1) 個別施策について

- ・これまでの委員会の意見を踏まえ、5つの基本施策(-1 多様な活動と連携の展開 -2 緑と水が持つ効果を高める -3 魅力アップとなる活用方法 -4 個々の緑を地域の緑として育む -5 暮らしを彩る多彩な緑の演出)と14個の個別施策として取りまとめたものについて議論を行った。

●主な意見のまとめ : ⇒ (委員の意見) → (事務局の回答)

【計画の基本的な考え方について】

- ・市内の緑は、市民の地道な活動の積み重ねで維持されてきた部分がある。緑を保全し、育んできた市民に対する尊敬の気持ちが書き込まれると良い。

【緑のマネジメントに関する意見について】

- ・個別施策「参加につながる取組み」として、既存制度の見直しについて具体的な補足説明をしてほしい。  
→緑ボランティア制度では、活動に一定の人数や期間などの決まりを設けているが、これを1日だけ参加したい、様々な場所で活動したいなどのニーズを捉え、「少人数」「短期」で参加できるような制度への見直し検討をイメージしている。
- ・個別施策「緑を支える広域的な連携」で隣接区市との連携も大切だが、井の頭公園や玉川上水といった都の管理している緑や、都道を整備する際の街路樹などについて東京都との連携を追記できないか。
- ・生物多様性から緑を考えると、点在する緑をつなげていく必要がある。市内では、武蔵境周辺に雑木林や農地が残っているため、広域的に考え保全する地域に位置付けてはどうか。
- ・「地域・民間・教育を巻き込む活動の推進」とあるが、取組む側からすれば、巻き込むという表現は適切ではないと考えられる。  
⇒表現方法については、「連携して」や「一体となった」といった工夫が必要。

【景観に関する意見について】

- ・個別施策「景観を高める緑の創出」は、商業地域に限られたものでなく、農地や住宅地も含まれるような表現方法にし、書き方を注意すべきではないか。

【水・水辺に関する意見について】

- ・仙川の水量の確保に関する小金井市との連携については、雨水貯留や浸透施設の整備も進んでいる。例えば梶野分水の水の活用など検討できないか。
- ・地下水の恵みについて記載してはどうか。五日市街道沿いの古い店には井戸が残っていたり、水道水を利用していることから、地下水を守ることに記載してはどうか。
- ・身近な公園に水辺や井戸があることで、日頃から水との関わりを持てることは重要ではないか。
- ・市内では、井戸や敷地を災害時の避難場所として提供してもらう防災協定を締結している農家がある。

⇒緑は命を支えるベースにもつながるため、水・水辺に関する視点も検討してほしい。

## 【その他】

- ・個別施策は、誰と連携し行うのかなどの記載があるといい。
  - ⇒市民・行政・民間のどこが主体で取組むのか示した方がわかりやすい。
  - ⇒市内の横のつながりだけでなく、地域とのつながりも必要である。
  - ⇒コミュニティの形成や子育てサポートなどの課題は、緑が軸となって他との関連性を見ていくと解決策が見出せるのではないか。
  
- ・短期や中期に取組む施策に絞って検討する方がいいのではないか。
  - ⇒長期の施策は、策定後から取組み 10 年後に効果が見える施策を表す。例えば、街路樹の更新は、長い目でみて取組む必要がある。
- ・今後 10 年間と長い計画のため、将来につながる可能性を含む表現とし、やることが既に決まっているように誤解されない書き方にすべきである。
- ・文章には責任を持つ必要がある。具体的に何をすることが重要で、出来る可能性のあるものを記載すべきである。
- ・現在行っている内容と新たに実施する内容がわかるよう表現に工夫が必要である。
  
- ・現在でも緑の取組みについて、NPO やボランティア団体が活動しているが、今回の計画では、より多くの市民に活動や参加を広げていくことや緑と人との関わり方を示すことが必要である。
- ・ライフスタイルという言葉は居住環境に限定されて捉えられるのではないか。
  - ⇒「ライフスタイル」という言葉は全ての施策に係る言葉であり、日々の暮らしの中でどう緑と関わっていくかが計画に書かれるとよい。
  
- ・市民の木と花が指定されているが、指定樹種を増やさないと改定が必要ではないか。
  - 市民の木と花は、過去の委員会で提案があったものである。これらは、市の歴史的な面影を残すものや今では貴重となった種類も含んでおり、市を象徴するものである。今後どのような緑を増やしていくかについては、生活の身近なところで季節感や豊かさ、彩りを感じる植物も考えているが、新たな指定については、現在のところ考えていない。
  
- ・雑木林は、その場所の状況によって色々な更新方法がある。10 年の計画の中で議論が必要である。
  
- ・企業では、持続可能な開発目標（SDGs）がキーワードとなっており、SDGs の目標を意識しながら様々な活動が進められている。緑の基本計画でも該当するものを取り入れてはどうか。
  - ⇒「質の高い緑化空間を創出する」の具体策として取り入れられたらと思う。